FAXニュース
ŌMIYA
JR東労組大宮地本
2020年3月6日
No. 135

大地申第１２号

「2020年3月ダイヤ改正等について」に関する申し入れ団体交渉開催！【川越車両センター分会・東大宮センター分会】

車セ関係その2

【川越車両センター分会】

１．提案が遅れたことにより、ダイヤ改正までに必要な準備時間が短くなっていることから、対策を講じると共に、次回は遅れる事の無いようにすること。

◆会社回答：提案内容について精査してきたところである。

組合：前回の秋のダイ改が一番大きかった。準備を進めて行く中でその都度見直し作成と手戻りもあった。

会社：間違いの無いように輸送課にしっかり求めていく。変更についてはしっかり対応していく。

組合：支社も同じ状況だったと思うが、川車セは入出区現票を唯一作成している。大きな変化点でもあった。改めて早めの準備と引継ぎがしっかり出来る体制を求める。

会社：言われていることは受け止める。入出区現票も現場に入り勉強していきたい。

２．相鉄線直通により他線区の遅延でも影響を受け、大宮駅及び大崎駅での分離となるケースが増え、ダイヤ平復にも時間が要しているため、下記の対策を行うこと。

①構内当直の負担が増大していることから、応援から交代勤務とし、運用支援装置の開発を行うこと。

②現行のフローで見えた課題を洗いだし、相鉄会社と再度調整を行うこと。

③１２０００系の対応を異常時に行えるよう、グループ会社を含め教育並びに契約を速やかに行うこと。

◆会社回答：必要な対策は実施していく考えである。

組合：現状、平日は技術管理から応援はあるが、限界である。支援装置や交代勤務にしていただきたい。

会社：応援の話も聞いている。支社も連携してきている。引き続きサポートはしていく。

組合：ダイヤが乱れた際、泊数が多くなり、どの車両がどこを走行しているのか分からない状況だ。

会社：理想はりんかい線との流れだが会社間で調整していく。本社にも話をしていきたい。

組合：異常時など入る可能性はある以上、水平分業の視点から、Ｇ社の訓練など体制の構築は必要だ。

会社：入区する可能性を考えてグループ会社には働きかけていく。

３．運用順序が平日ー休日でずれているため、適正な検査周期となっていないことから、平準化すること。

◆会社回答：必要な列車運転計画に伴った車両運用計画である。

組合：相鉄線直通によって影響が出ている。

会社：１１月３０日改正があり、今回は細かな修正のみだった。支社も運用段は平準化にしたい。

組合：休・平・休のとき、６泊７日で一般的な周期を超えるものもある。出区替えして対応している

会社：課題と認識している。

【東大宮センター分会】

１．Ｅ２６１系の配置に伴い新たな機器・システムを検査することから、検査に支障の無い体制と予備品を確保すること。また、１８５系等の置き換え車両のＥ２５７系において、更新機器の説明書等を早急に整備すること。

◆会社回答：関係箇所と調整し対応していく考えである。

組合：初めてＩＮＴＥＲＯＳ導入。支障ない体制、予備品確保の考えは？

会社：２編成配置した。支社としても現場と一緒にやっていく。

組合：読み出しができないので東大宮で対応できない。早急に配備をお願いしたい。

会社：本社・メーカーで即応体制をつくり上げている。一定の段階で東大宮に説明したい。

組合：Ｅ２５７系の取説は作らないと聞いている。改造箇所含め説明書がないと見通しがつかない。

会社：仕様書や説明書がほしいということあるので、再度本社に確認して提供できるものは提供したい。

３．Ｅ２５７系においてデッキ部の床膨れ、トイレ故障、客室内などの雨漏りが多発していることから、計画的な修繕をすること。

◆会社回答：各種計画については、関係箇所と調整し実施していく考えである。

組合：リニューアル車ということで利用客も期待されている。自信を持って提供できる車両としたい。

会社：客室内はリニューアルで奇麗になった。修繕等必要な箇所は状況を見ていく。

会社：まずは予算を確保しなければならない。様々な方法を駆使して進めている。

より安全で働きがいある職場の構築を目指し、ダイヤ改正以降の検証を積み上げよう！